
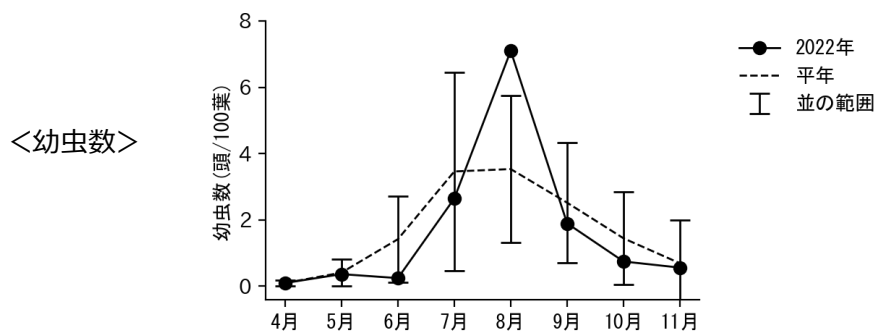
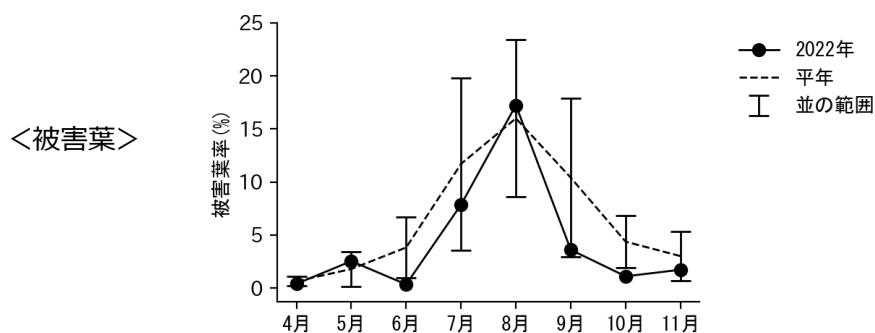


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	イモキバガ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	11 月からの増減傾向	—	
		12 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率33.3% (平年 : 83.6%)

防除のポイント

・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。



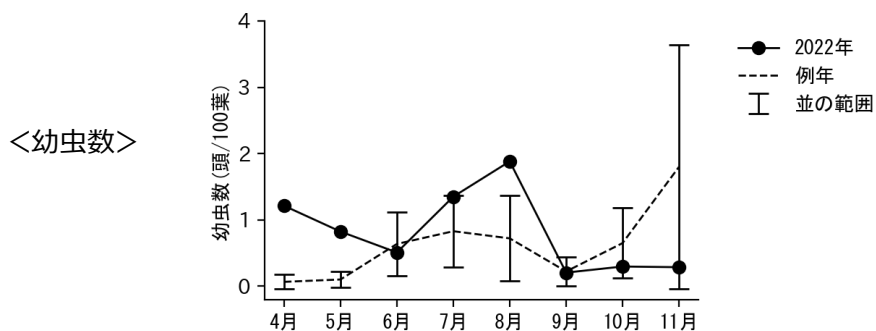
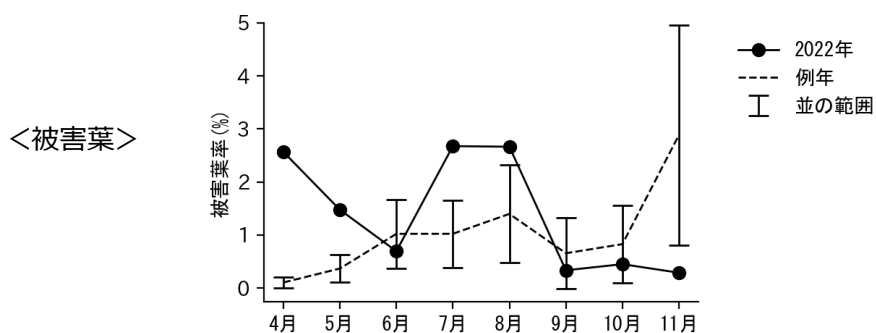
作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	トリバ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			



サツマイモトリバ

調査結果

今期と平年の発生推移




・発生ほ場率44.4% (例年：69.6%)

防除のポイント

・発生初期の防除が有効であるので、被害葉が出はじめたら、薬剤散布する。

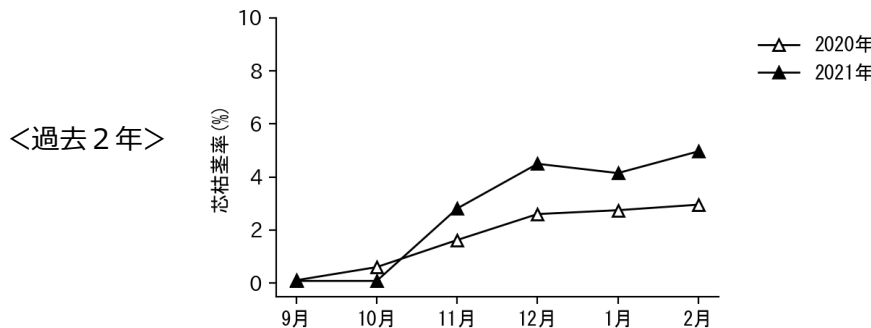
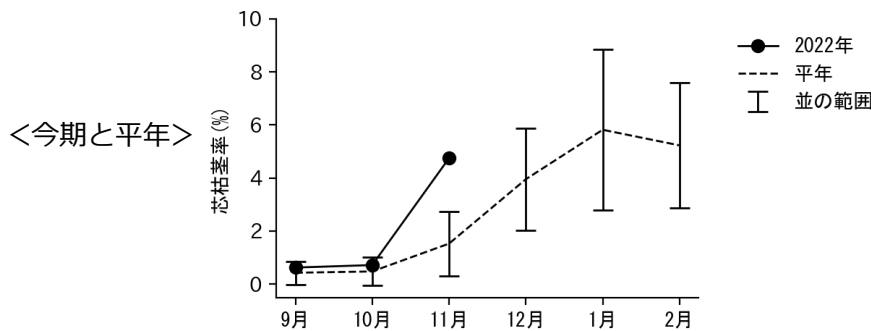


被害葉

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	11 月の発生量 (平年比) 多		
予報	11 月からの増減傾向 ↑ 12 月の発生量 (平年比) 多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↑)	

調査結果


芯枯茎率の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、優先種はカンシャシンクイハマキであった。
- ・ 発生ほ場率93.8% (平年 : 64.9%)

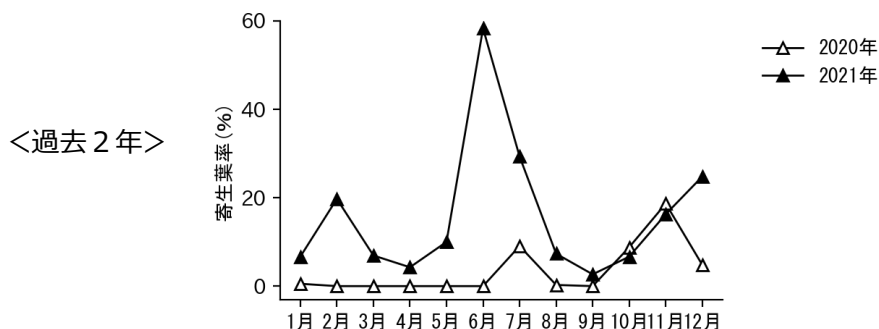
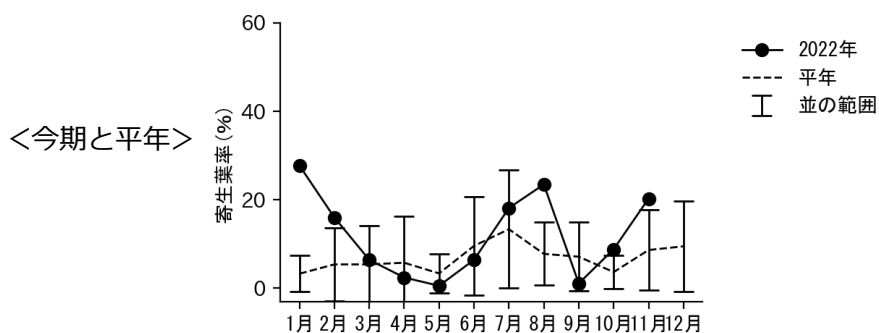
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	11 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

寄生葉率の推移




- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率100%（平年：51.1%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

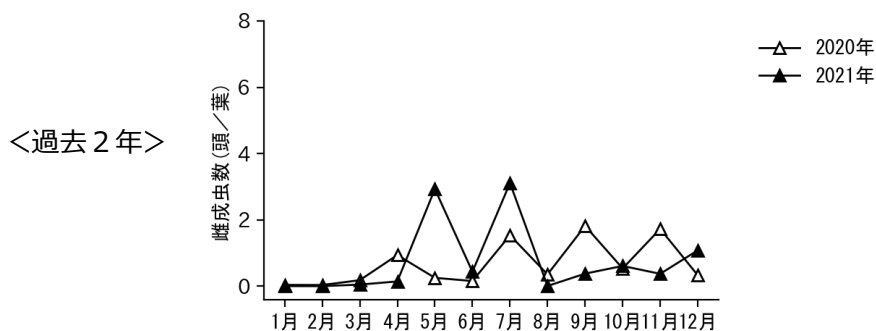
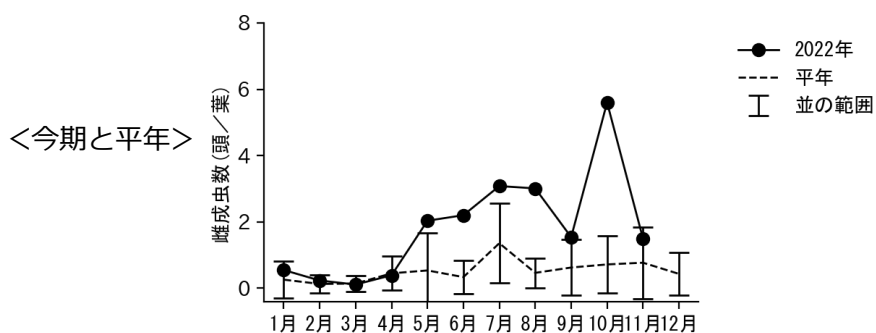


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↓	
		12 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率62.5% (平年：48.6%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状



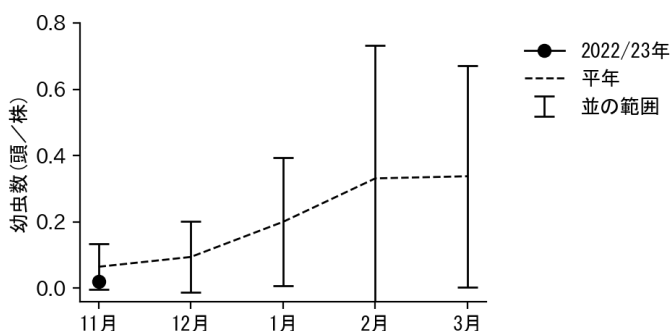
マンゴーツメハダニ

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	① コナガ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	→	
		12 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

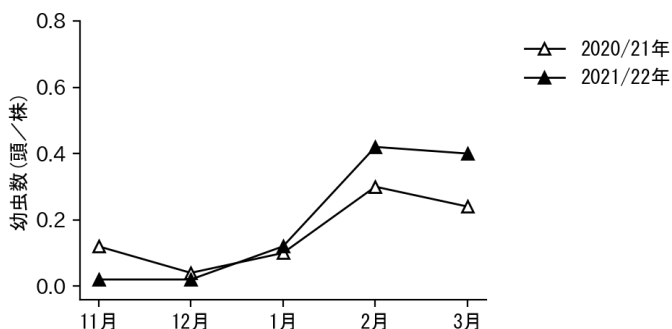
調査結果

幼虫数の推移

<今期と平年>




<過去2年>



・発生ほ場率20.0% (平年 : 31.1%)

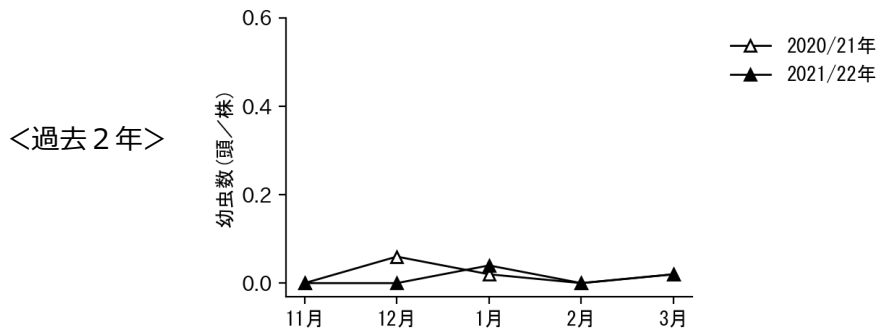
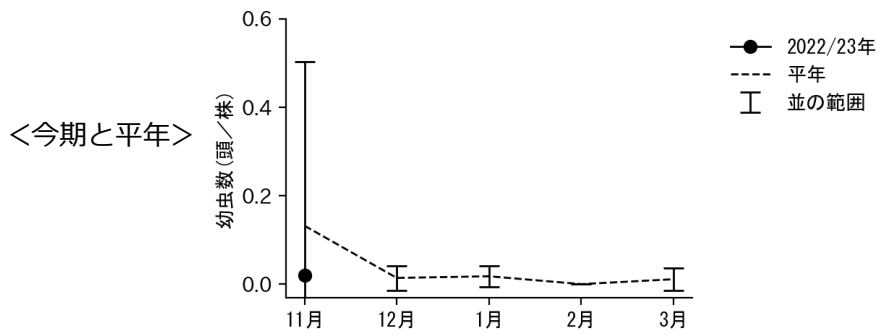
防除のポイント

- ・ほ場周辺のアブラナ科雑草の除去および収穫後の残さ処理を徹底し、ほ場管理に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、低密度時に薬剤防除を行う。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	② チョウ目幼虫		 <p>ハスモンヨトウ</p>
調査結果	11 月の発生量（平年比）	並	
予報	11 月からの増減傾向	↘	
	12 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果

幼虫数の推移



- ・発生種：ハスモンヨトウ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：24.0%）

防除のポイント


- ・ほ場周辺の雑草の除去および収穫後の残さ処理を徹底し、ほ場管理に努める。
- ・老齢幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫による食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



タマナギンウワバ

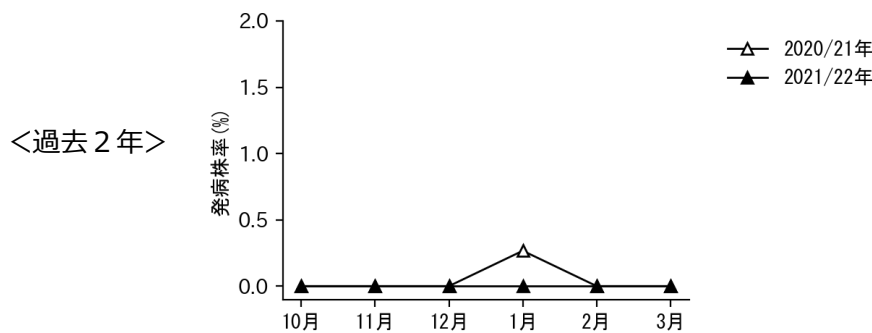
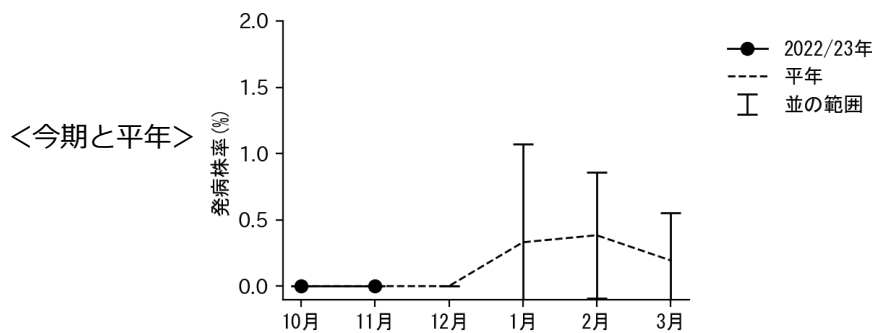


モンシロチョウ

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	① 菌核病		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

発病株率の推移




・発生ほ場率0% (平年 : 0%)

防除のポイント

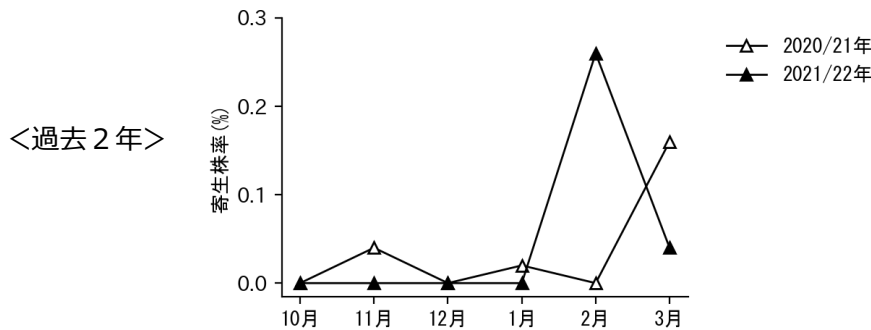
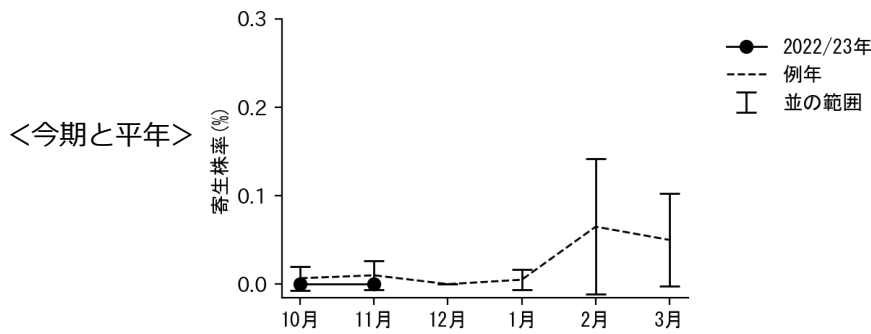
- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに、早めに抜き取る。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。



作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	② アブラムシ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	11 月からの増減傾向	↘	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果


寄生株率の推移



・発生ほ場率0% (例年 : 10.0%)

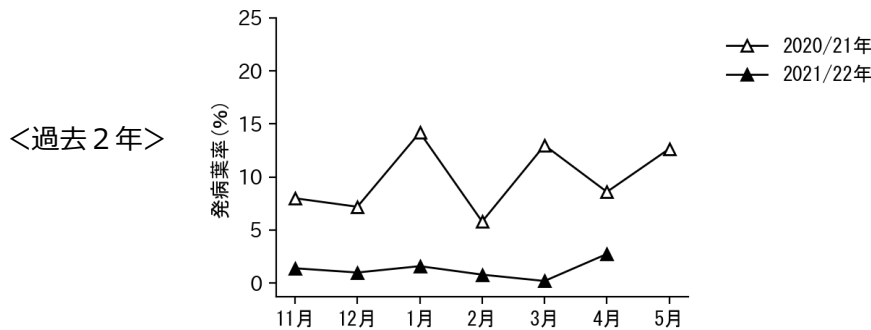
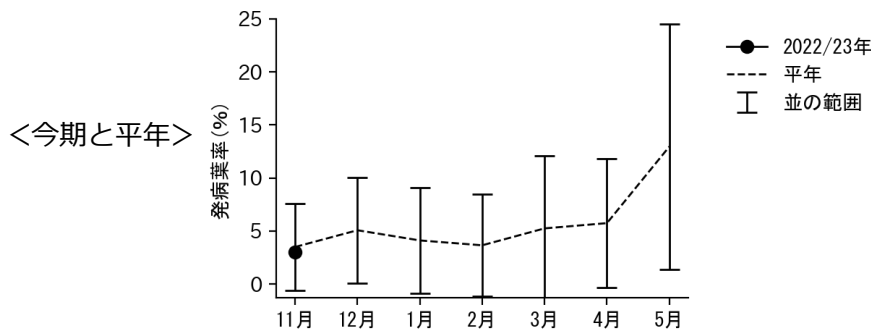
防除のポイント

- ・植え付け時に粒剤を施用し、初期防除に努める。
- ・早期発見に努め、適宜薬剤散布を行う。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

作物	ニガウリ(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↗	
		12 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率50.0% (平年 : 39.1%)

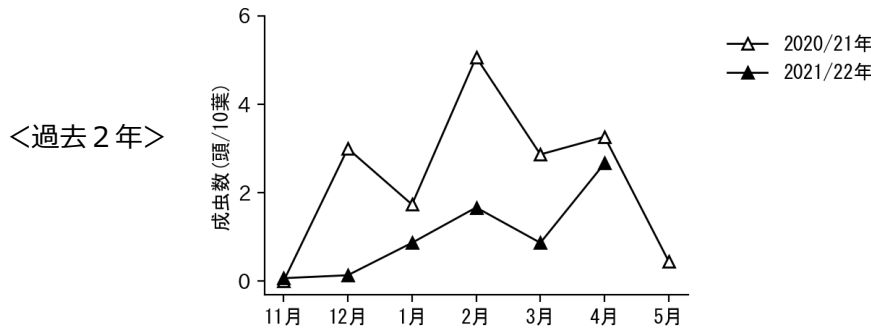
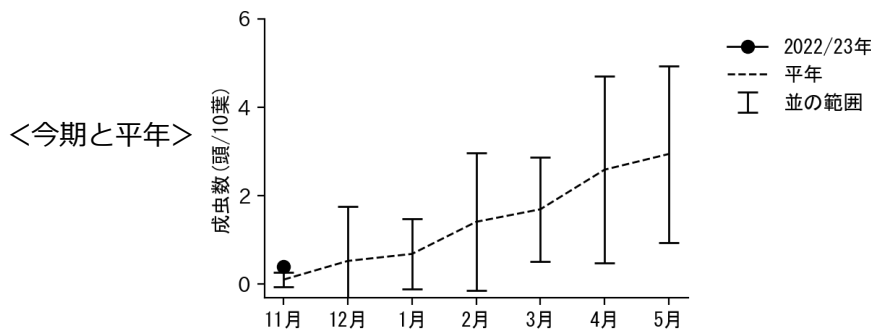
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	11 月からの増減傾向	↗	
		12 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率50.0% (平年 : 13.9%)

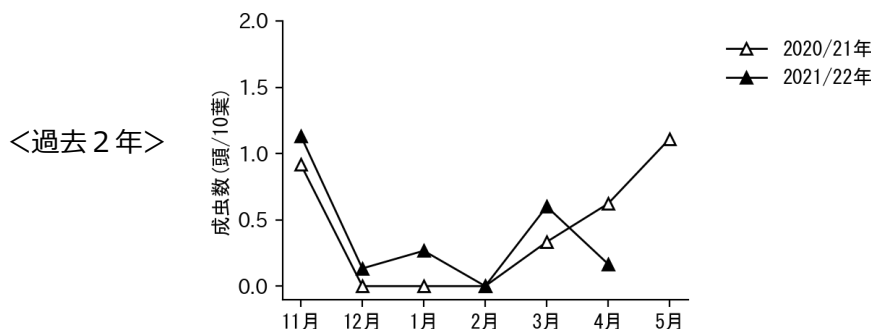
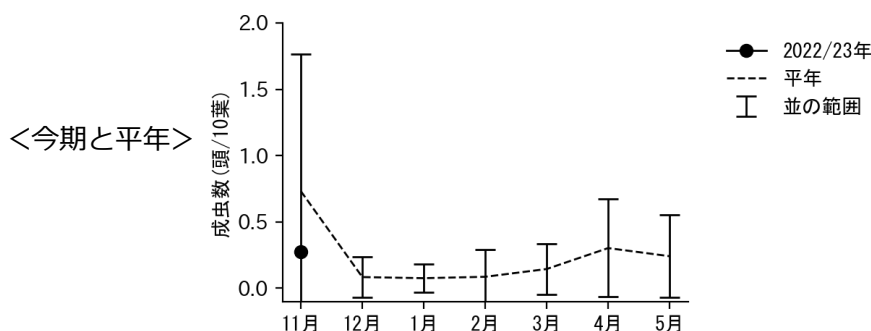
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↘	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率50.0% (平年 : 52.8%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

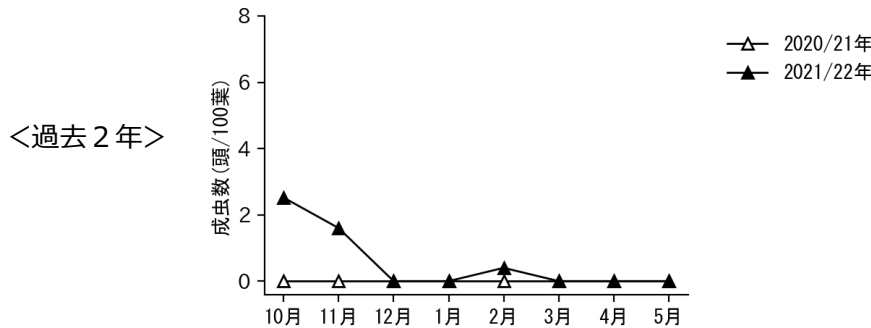
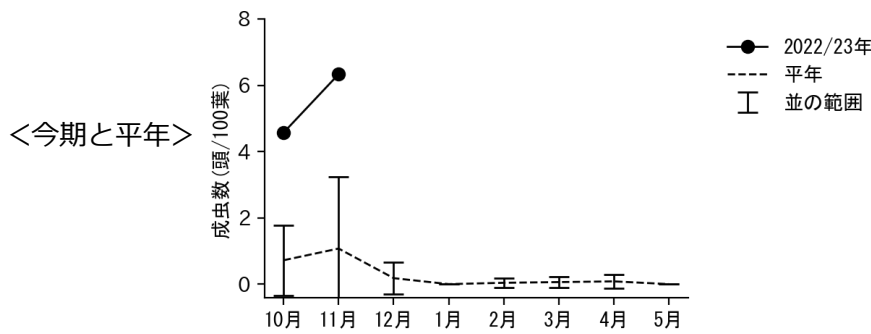


幼虫

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	11 月からの増減傾向	↓	
		12 月の発生量 (平年比)	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率33.3% (平年 : 14.0%)、一部施設で多発

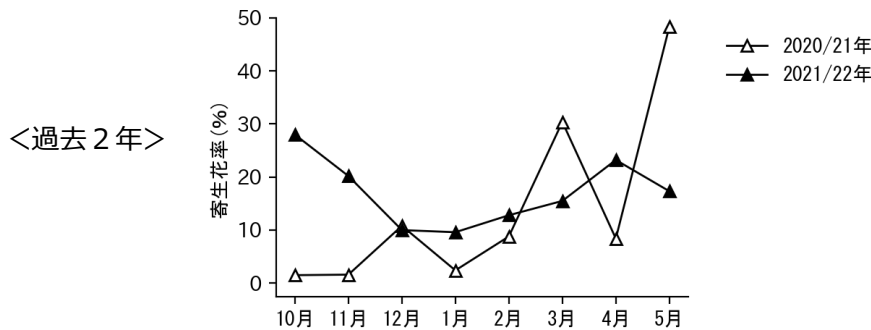
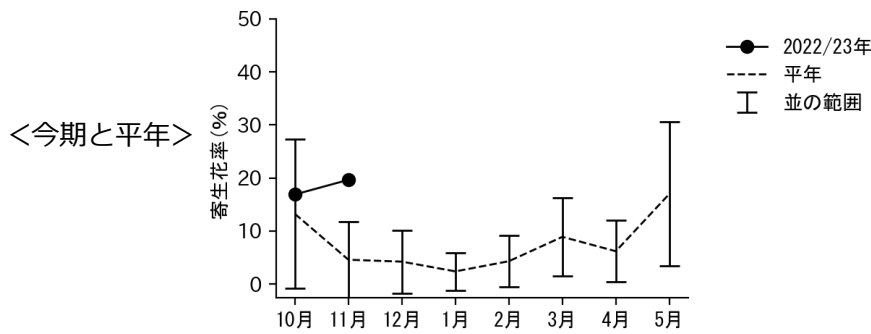
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ヒラズハナアザミウマ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果


寄生花率の推移



・発生施設率66.7% (平年 : 32.0%)

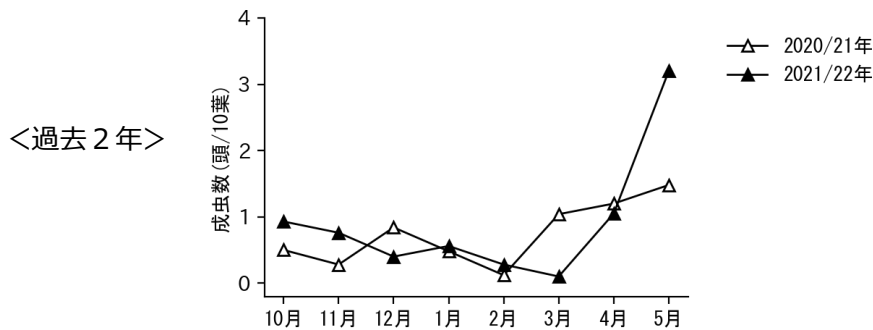
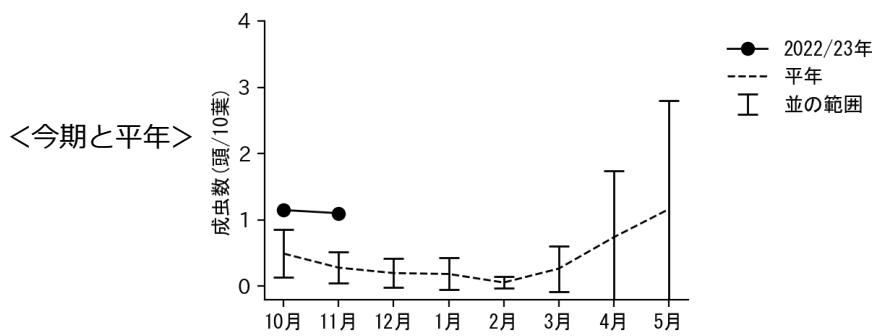
防除のポイント

- ・本種は主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へタ部や果梗部が黒変する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率100% (平年 : 44.0%)、一部施設で多発

防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。



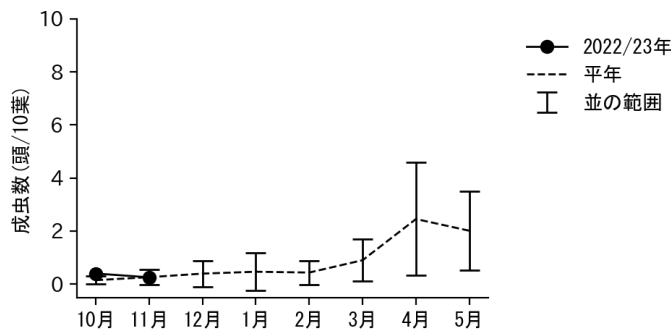
幼虫

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

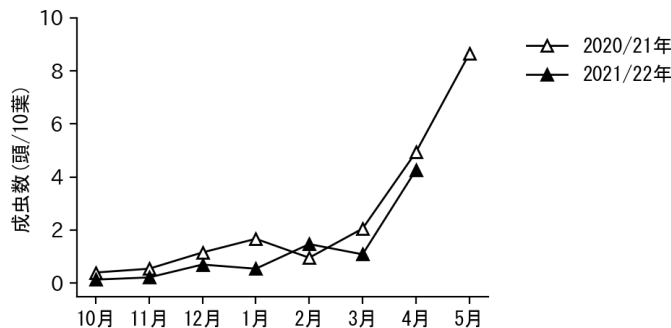
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生施設率85.7% (平年 : 41.2%)


防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻病を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。



幼虫

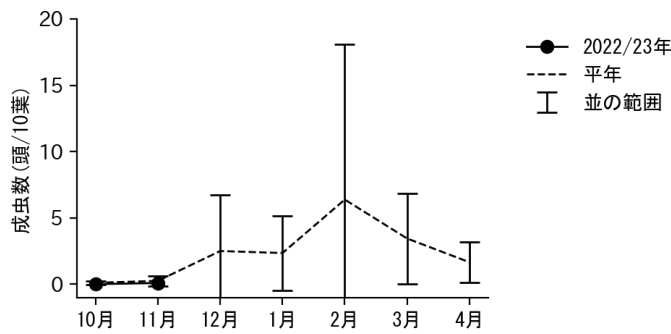


作物	サヤインゲン(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↗	
		12 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

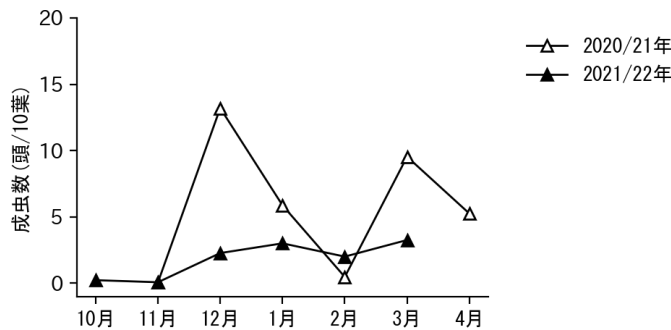
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>




<過去2年>



・発生ほ場率25.0% (平年 : 19.6%)

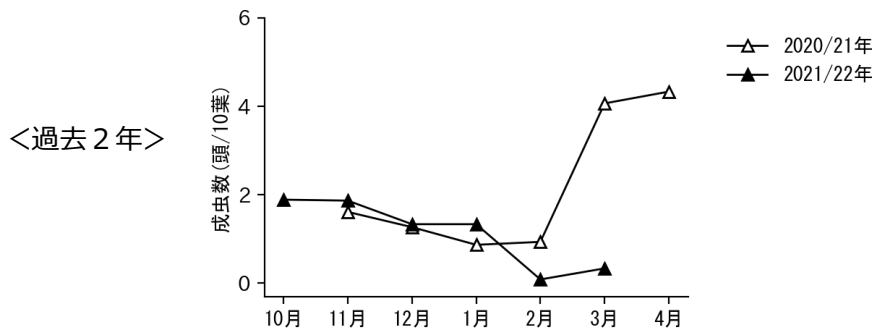
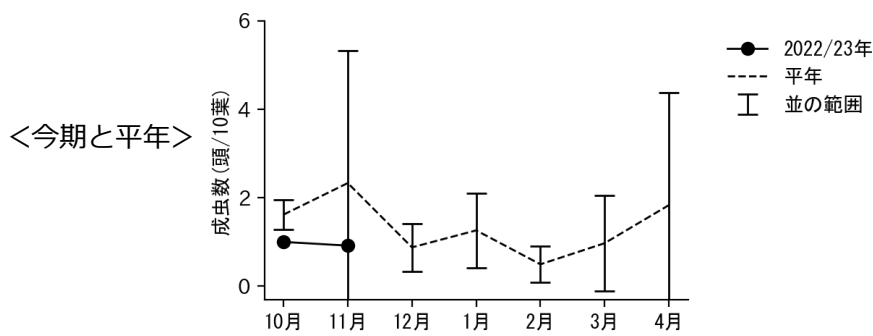
防除のポイント

- ・ほ場内外の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	サヤインゲン(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↘	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

成虫数の推移




・発生ほ場率100% (平年 : 71.7%)

防除のポイント

- ・ほ場内外の雑草は発生源になるので除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。  
また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。

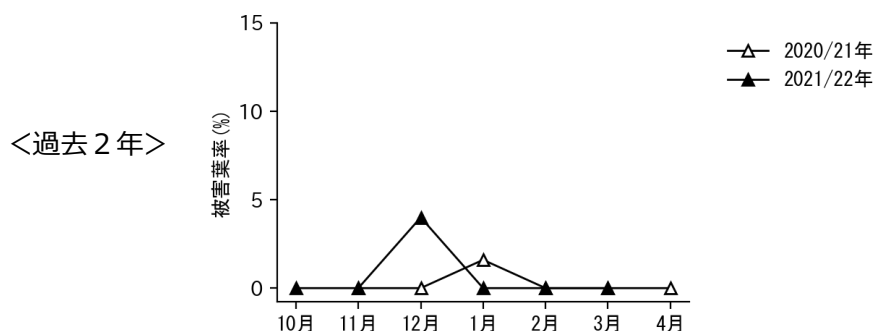
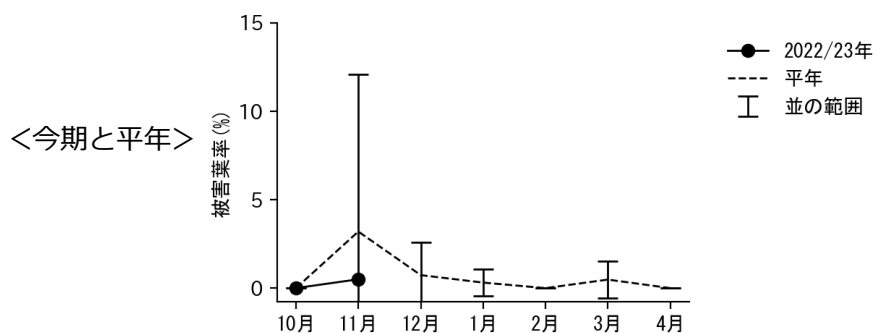


幼虫

作物	サヤインゲン(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ホコリダニ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↘	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果


被害株率の推移



・発生ほ場率25.0% (平年 : 5.7%)

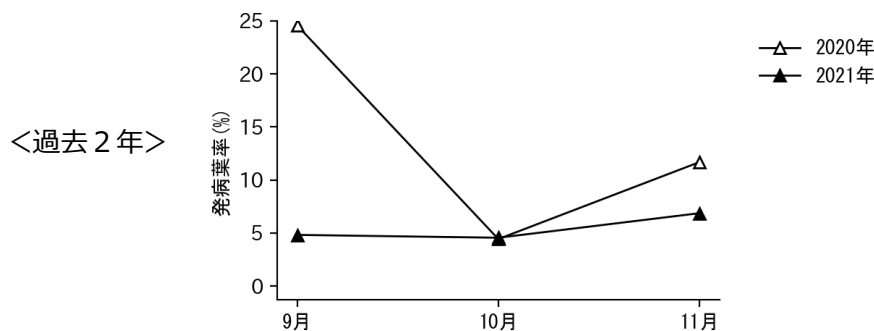
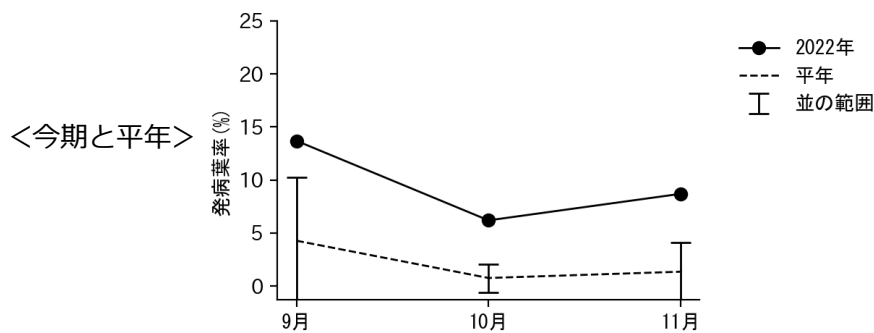
防除のポイント

- ・25℃での卵から成虫までの発育期間は7~11日と短く、短期間のうちに高密度になりやすいため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っているため、薬散は丁寧に行う。
- ・ほ場内外の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	黒斑・褐斑病		
調査結果	11 月の発生量（平年比）	多	
予 報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率100%（平年：12.3%）、一部ほ場で多発

防除のポイント

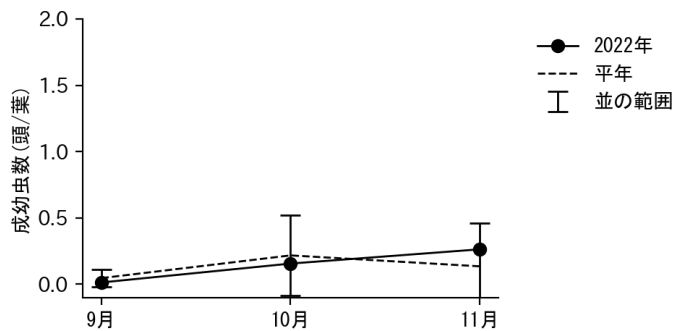
- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生を助長するため、施肥管理を適正に行う。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。
- ・発生が多い場合は薬剤散布により防除を徹底する。

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	アザミウマ類		 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	11 月の発生量（平年比）	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

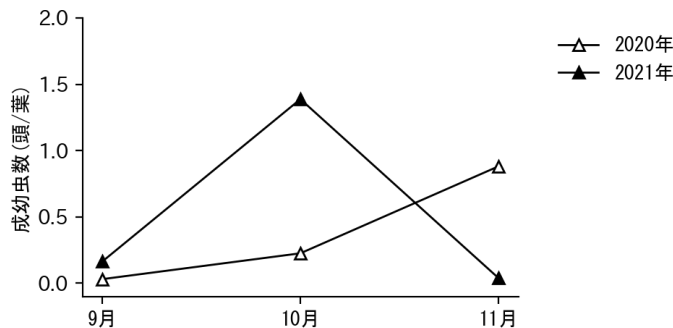
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>




<過去2年>



- ・ 防除員報告：久米島（多発生）
- ・ 発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・ 発生ほ場率87.5%（平年：35.1%）

防除のポイント

- ・ 成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・ 同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・ 地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマ類が増殖しやすいので、早めに除去する。

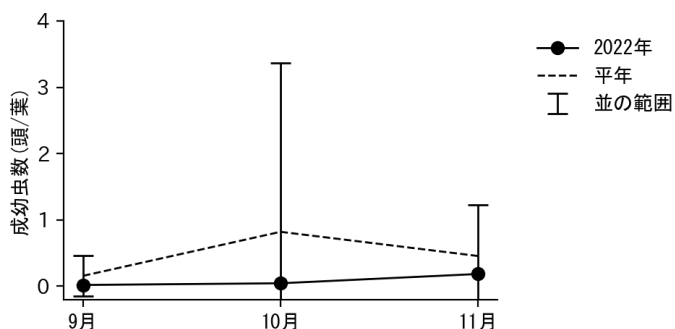
作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量 (平年比)	—	

予報の根拠

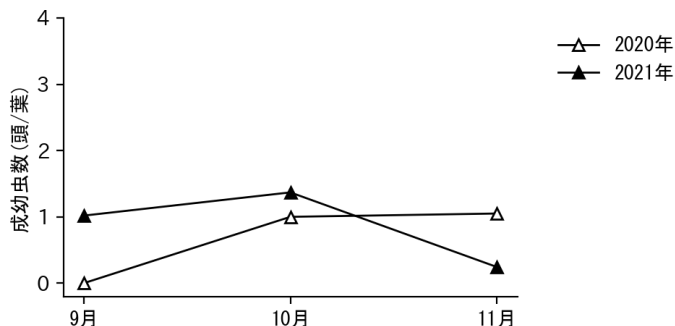
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>




・発生ほ場率37.5% (平年 : 30.7%)

防除のポイント

- ・新葉部を中心に発生が認められたら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

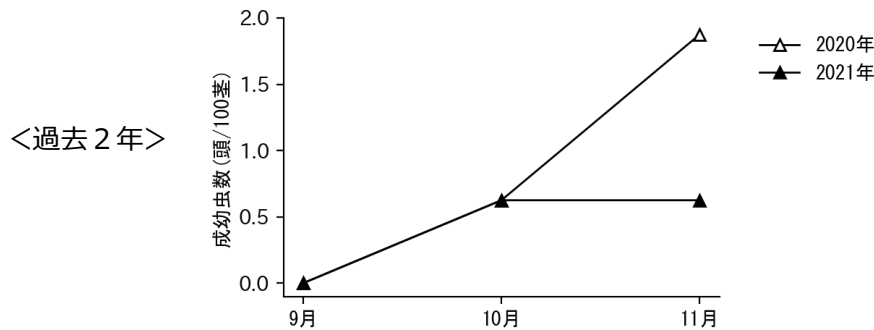
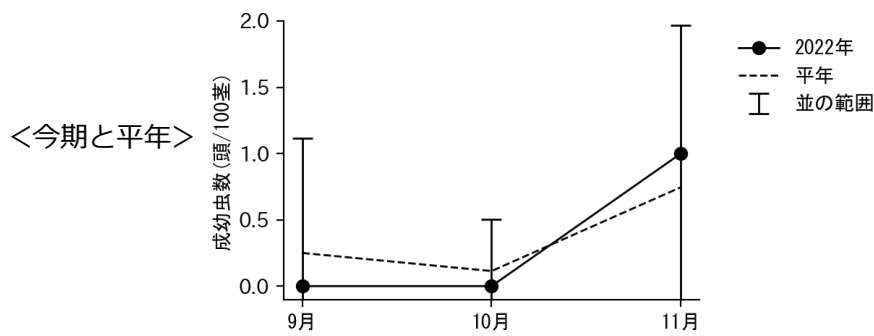


寄生の様子

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	カスミカメ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率12.5% (平年 : 11.4%)

防除のポイント

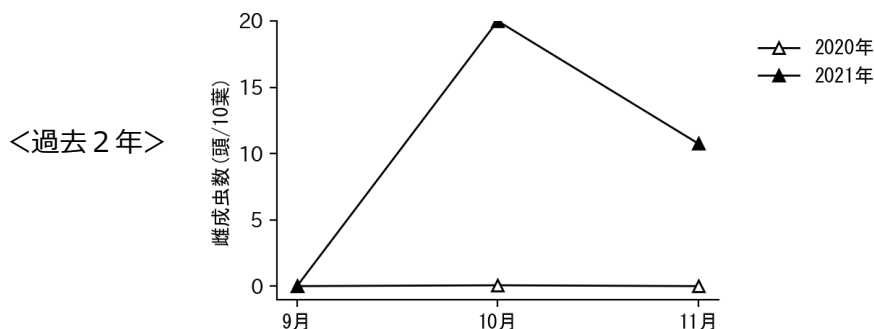
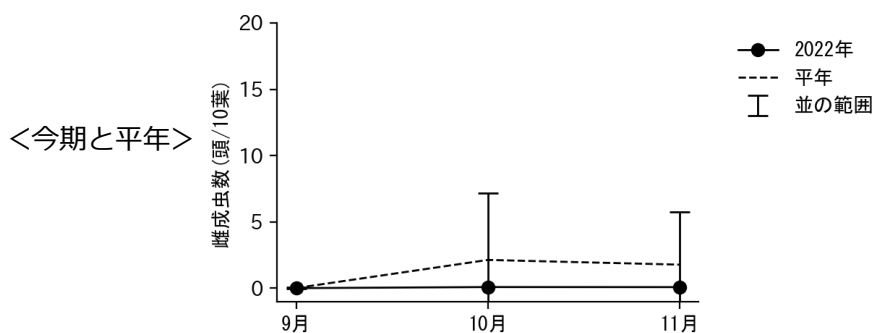
- ・周囲のほ場に収穫残りのキク科雑草の花等があると発生源になる場合があるので除去する。
- ・薬剤による感受性は高いが、次々と飛来するため、防除は成虫の出現初期から5～7日おきに実施する。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		 <p>ナミハダニ</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量 (平年比)	—	

予報の根拠

調査結果

雌成虫数の推移



- ・防除員報告：伊江島 (多発生)
- ・発生ほ場率37.5% (平年：9.7%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。